

2025年11月23日

(朝 10:30-11:30)

聖日礼拝

司会 城尾マコト

前奏	全員黙祷 「新聖歌 23 番」	
招詞	ヨハネ 8 章 44~45 節(新 152 頁)	司会者
頌栄	「新聖歌 60 番」	
主の祈り		全員
使徒信条		全員
交説文	新改訳 40 番 詩篇 126 篇 911 頁	司会者・全員
聖書	出エジプト 20 章 16 節(旧 102 頁)	司会者
讃美歌	♪新聖歌 108 丘に立てる荒削りの	
祈祷	司会者による祈り	
	♪子供達の祝福の為の賛美 484 番	
讃美歌	♪新聖歌 221 ああ主の瞳	
メッセージ	「罪を洗い流して下さるイエス様」	城尾淳一
讃美歌	♪新聖歌 438 悩む世人のために	
	証とお知らせの時間	
献金	新聖歌 55 番	
頌栄	新聖歌 63 番	
祝祷		城尾マコト牧師
後奏	全員黙祷 新聖歌 59 番	



Youtube



Facebook



HomePage

出エジプト記 20 章「罪を洗い流して下さるイエス様」

あなたは隣人について偽証してはならない

神様がイスラエルの民に与えてくださった十戒の九つ目です。ヘブライ語では「ロー・タアナー・ベレアハ-エード・シャーケル」と書き、「あなたは隣人について偽りの証言をしてはならない」となります。この戒めは単なる一般的な嘘ではなく、司法における偽証「エード」を特に禁じています。

古代イスラエルの法廷文脈

古代イスラエルでは門の広場が裁判所であり、証人制度が司法の根幹でした。DNA 鑑定や監視カメラも無く人の言葉だけが唯一の証拠でした。第九戒は法廷での偽証を第一義的に禁じており、後に日常的な中傷や誹謗へと拡張されてきました。

「隣人について」の重要性

神様は十戒を抽象的な道徳としてではなく、具体的な関係の中に生きる私たち一人ひとりを前提に語っておられます。現代では SNS のように顔の見えない相手であっても、一度言葉を交わした瞬間、その相手は「隣人」となります。匿名だからこそ、相手を尊重する心が試される時代です。

第九戒の目的と神の意図

この戒めは司法制度の保護、共同体における信頼関係の維持、弱者の保護という社会的効果と、神様の性質の反映、契約関係の維持という神学的効果のために与えられました。つまり第九戒は健全な社会、健全な共同体、そして神様に似た民を築くために与えられた戒めなのです。

第九戒の適用範囲について

適用範囲については、解釈の歴史があり、様々な立場が存在します。重要なのは、解釈がどうであれ、聖書全体は言葉の責任について明確に教えているということです。レビ記 19:16 は中傷を禁じ、箴言は「偽りの舌」を神様が憎まれると教え、ヤコブ書は舌の破壊力を警告しています。

偽証の犠牲者イエス様

イエス様は偽証によって死刑の宣告を受け、十字架にかけられました。罪を犯していないのに、神様を冒涜したと偽証され、多くの人々が扇動されました。しかし第九の戒めは「律法の話」だけではなく「十字架に繋がる話」でもあり、イエス様の救いと密接につながっていました。

罪を洗い流して下さるイエス様

言葉の罪は人の努力で止めることはできません。律法は、私たちを絶望させるためではなく、「律法を完全に守れないからこそ、イエス様の救いが必要なんだ」と気づかせ、救いに導く「養育係」なのです。イエス様はすべての人の罪を背負って十字架にかかりました。イエス様はあなたの罪を覆い、そして洗い流して、私たちを救いの道へと導いてくださいます。

城尾淳一